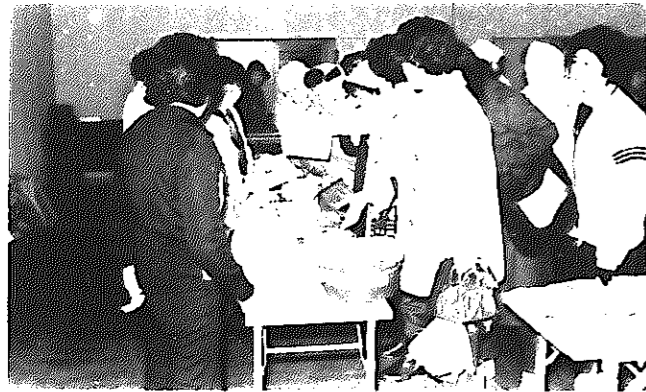




とくに主婦と子供たちが目立った映写会



多くの善意が寄せられたバザール

『典子は今』に1,700人の市民が

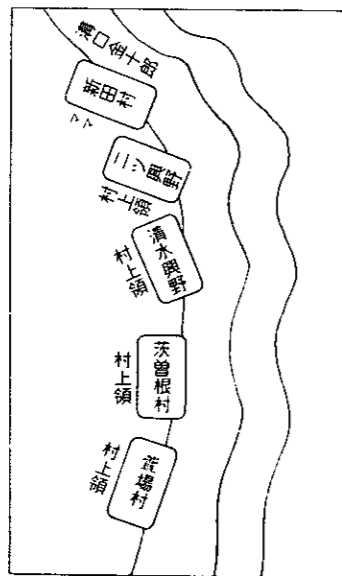
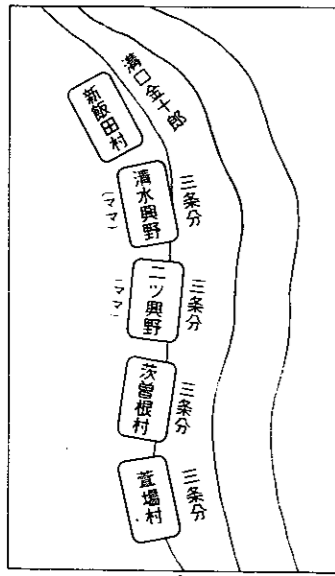
2回上映を3回に変更

サリドマイドという不運な障害を乗り越える辻 典子さんの青春を、力強く描いた映画『典子は今』が、1月31日 産業厚生会館で上映され、多くの市民に深い感動を与えました。

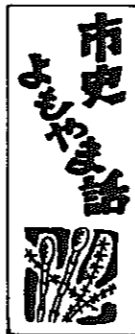
主催の社会福祉協議会では、当初、2回上映の予定としていましたが、あまりの反響の大きさに3回上映に変更するなど、話題作のものすごさに舌を巻いていました。

不用品チャリティーバザールも盛況

映写会に合わせた市消費生活相談員による、不用品チャリティーバザールも大盛況で、相談員が集めた品物はまたたく間に売り切れ、その額は4万円余りになりました。この収益金は、福祉事業に役立ててもらおうことにしているそうです。ご協力ありがとうございました。



茨曾根支配(下) 次、関根家文書(写)は差出人不明。萱場村と思われるが紹介のみにとどめる。金十郎殿領分下ケ米之事合 右無相違御通シ可給者也 寛永拾三年 大津三右衛門 十一月 島原村米留



御奉行衆江、いわゆる正保絵図は三種類あり、正保...年ころ作成されたと言われている。また下書と思われる絵図もあって、それぞれ記載が一致しない。茨曾根に着目した限りでは二種の異った記載がある(略図)。①「正保四年 御領分絵図写濟」という張り紙のある絵図で「三条分」と記されている。②「正保四年 新発田領絵図」

として複製市販されたもので、「村上領」と記され、正保四年の製作と認められるとの後人の但し書がある。 溝口金十郎は二代沢海藩主土佐守一在任寛永十一年(寛文十一年)で右絵図の作成時は在任中。よって、同氏の在任中に茨曾根地区内諸村は新発田、三条城、沢海の分割支配から三条城ついで村上領へと全国支配に、急激な変革があったと解される。 この変革を裏付ける文書としては「三条市史」慶安二年の条及び次の「関根家由緒」がある。(謙信以来三条城支配を示唆) 元和六年(慶安二年迄) 両度も御料所二相成、慶安二 松平大和守様御入国之節より村上領二相成、大庄屋被仰付 元和六年以前の茨曾根村支配については今後とも検討しなければならぬが、要約すると初回(上)に示した表のようになる。 関根家に分割時代の文書(写)が現存する事情は「大庄屋被仰付」ることによって、旧管掌下諸村の文書が集められるに至ったためである。 (関根家由緒)には元和六年以前の統治者についての明快な記事が見えない。これは憶測だが、大庄屋を自負する同家にとって甚だ不満で分断支配の記録をためらったのではあるまいか。 慶安二年から明治に至るまで旧茨曾根村が村上藩に支配されたと伝えられるが分断支配の痕跡がある。ここではふれない。



菱瀧の神社で見つかった「竜」の彫りもの この裏には「石川雲蝶」の名が刻まれている。

菱瀧の神社に西福寺(小出町) 開山堂の彫刻で有名な

石川雲蝶の(?)彫りものが

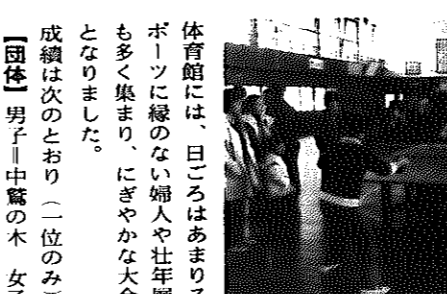
菱瀧の神社で、江戸末期の彫刻師・石川雲蝶の作とみられる竜の彫刻が見つかり、地元では



小出町・西福寺の開山堂の彫刻 雲蝶が堂建立の際、18年間にわたり同寺に滞留して制作したものです。

ちよつとした「雲蝶ブーム」が起っています。 石川雲蝶は天保十二年(一八四一年)江戸に生まれ、若くして彫刻に優れ、その腕を見込まれて三条の酒井家に婿入りし中越を中心に活躍。明治十五年(一八八二年)に没しました。彼の作品の中でとくに優れたものとして有名なものが、小出町の西福寺・開山堂の彫刻で、県指定文化財にもなっています。 この発端は、松野末吉さん(

菱瀧第一)が、石川雲蝶の名前を新聞で目にしたことから「お宮にもそんな名前を記した彫りものがあった」と思い出して調べたら、横一丁五丁、高さ二十七寸の透し彫りの竜の裏に「石川匠雲蝶」の名前がありビックリ。「昔の八坂神社は小出の方から譲り付けて建てたもの」と聞いているのでそんな関係なんだろうかと「不思議がる声もとにかく本物かどうか市の文化財審議委員会から調査してもらうことにしているそうです。



吹雪の舞う寒い日にもかかわらず、熱戦が続いた観衆卓球大会 一団団 男子 中驚の木 女子

県広報コンクールで 本紙が三年連続入選

五十六年度、県広報コンクールで、「広報しろね」が三年連続八回目の入選を果しました。このほか写真部門で二点が入選。展示部門でも努力賞をそれぞれ受賞いたしました。 今後とも広報活動に對し、市民のみならずのご理解とご協力を、お願いいたします。

青少年健全育成の標語コンクール

最優秀賞に 小竹くん・小杉くん・藤川さん (第一中) (新飯田中) (臼井中)

青少年問題協議会が、市内の中学生を対象に募集した「青少年健全育成啓発標語」の審査会が、1月20日、青年教育センターで行われ、応募数100点の中から次の作品を今後秀賞に選ばれました。同協議会ではこれらの作品を、今後積極的に活用し、青少年の健全育成に對し、市民の協力を呼びかけていくことにしています。



【最優秀賞】

- 「愛のある親子の対話で明るい家庭」 第一中学校 小竹 城
- 「たくましく未来を築け青少年」 新飯田中学校 小杉 隆
- 「横道にそれるなそらすな青少年」 臼井中学校 藤川聖美

- 【優秀賞】堀内みゆき(新飯田中) 近藤浩一(臼井中) 赤塚真由美(新飯田中) 小竹 城(第一中) 本間幸子(新飯田中) 土田真理子(臼井中) 【奨励賞】木津吉博(新飯田中) 猪腰 努(臼井中) 青木和英(同) 石田加世子(同) 新田裕章(同) 小林美奈子(新飯田中) 赤塚照美(同) 佐藤由紀(同) 遠藤英道(臼井中)